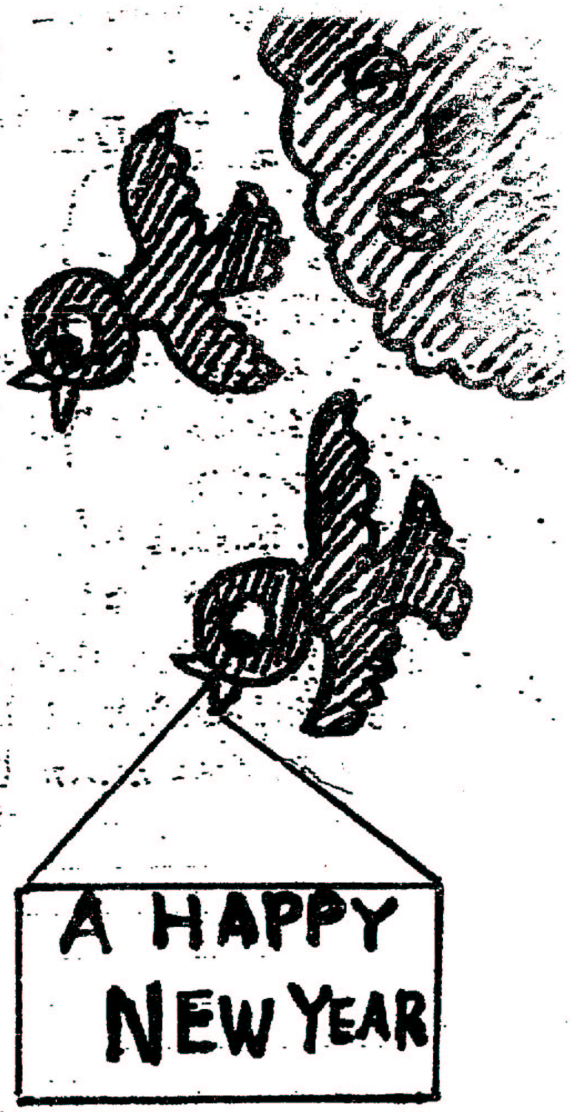
ニュース

1996. 1. 18 No. 54



みんなの力を寄せ合う年に

年末のスタディ・ツアーは楽しい充実した旅でした。医療も教育もカラムディ村の人たちがショシダニ・ションスタを中心に確実に前進させています。

ことしは村のようすや情報を日本のわたしたちがきちんと受け止めみんなで考えたいと思います。

ここまで両方の国が理解し合って友情に結ばれているのはほんとうにうれしいことです。

会の前進のために

みんなが自分の意見を持ち力を寄せ合うことのできる会にしましょう！

楽しい「手をつなぐ会」に！（大木）

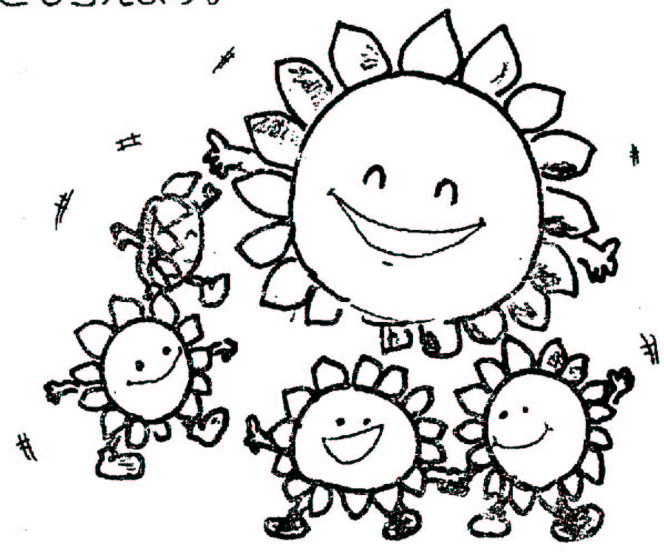
カラムディ村ではいま

～スタディツアーで見てきたカラムディ村と村人たち～

昨年１２月２４日に日本を出発し、３１日の朝、帰ってきました。村にはあまり長く滞在できませんでしたが、２日間非常に忙しい時を過ごしました。

今回村に行って様々なことを感じました。何よりも先に言わなければならないのは、ザフォル事務局長と医師のノルジャマンさんの日本での一カ月間の研修による変化です。彼ら自身も変化したし、その変化に村人も応えているようです。彼らによると、村人は時間に対して非常に敏感になりました。「１２時の電車は何時にきますか？」と言われる国で、しかもカラムディ村の様なとても田舎で、予定時刻通りに会合を始めることがまれなことです。しかし、それが今現実になりました。私は一回だけ村人と会議をしました。私が遅れたことが恥ずかしく思われるほど、皆は時間通りに来ていました。

教育の方面では、カラムディ村や周辺の村人は、とにかく小学校に行ける年令の子供達全員をいかに学校に行かせるか、必死で考えています。今まで、単に何人の子供が学校に入学したか、その数に満足していたけれど、今は、何人のうち何人、つまり何割の子供が学校に通っているか、それを正確に把握し、学校に行かない子供達をどうするかを皆で考えるようになりました。対策として、学校の先生、学校の運営委員会、ショングニの運営委員会や村人が一緒になって会合をし、親や子供に直接働きかけることになっています。また中途退学者や、小学校から中学校へ、中学校から高校へ行く段階での退学者のことも考えます。



今まで、先生や教室の数が足りないので、各小学校で二部制授業が行われています。初めての試みとして今年は、ジャパニ小学校に２人の先生を新しく雇い、全クラスの授業を一斉に始めようとしています。２人のうち１人は、カラムディ第一小学校を退職された校長先生です。村では彼の人気は非常に高いようです。彼は単なる先生だけではなく、村全体の教育を指導する、教育調整官という立場になるでしょう。

また、村出身の高校生や大学生による「先生の予備軍」を作ることになりました。これらの学生が、休みのとき村に帰って来て、ショングニに報告し、学校の要

場があれば、彼らの中からその学校に派遣します。このように、村の教育を皆自分達の手で作ることを考えています。この計画がうまく行けば、数だけでなく、教育の質も向上するでしょう。

母子保健センターも順調に動いています。嬉しいことは、私達が村に着いた日、３人の赤ちゃんが無事出産したことです。看護婦の二人は大変忙しく、夜ずっと寝ないでその患者と赤ちゃんの面倒をみました。医師のノルジャマンさんは日本に来る前には、出張で不在のこともありましたが、今は時間通りに通勤しています。午前中には患者を診察し、午後からは看護婦と一緒に村に出て行ったり、母親教室や健康教育などを行っています。母子保健センターに対するカラムディ村だけではなく、周辺の村人の期待は大きいものがあります。ノルジャマンさん自身も村人も強く求めていることは、周辺に病院がないので、２４時間体制で診療を始めること。そのためには、少なくともう一人の医者と２人の看護婦が必要です。また簡単な検査を行える道具や、治療に欠かせないものとしてレントゲン装置が必要です。皆で彼らの希望に応える努力をしましょう。

（ラフマン）

福間公民館で報告会（12/3）

昨年の１２月３日（日）福間公民館の視聴覚教室で、ラフマンさんによるバングラデシュ現地訪問の報告会が開かれました。参加者は福寿大学の学生約４０人。スライドを使って、バングラデシュの歴史、文化、生活、教育や医療などについて話しました。又「バングラデシュと手をつなぐ会」の活動についても報告しました。参加者は高齢者の方々でしたが、みな関心をもっていろいろ質問して下さいました。特に、オウムの影響もあってか、バングラデシュでの宗教問題について質問がありました。

八女市本村でも報告会

自治労福岡県職員労働組合八女支部の新春総会で１月１０日、報告会を行いました。約４５人の会員の参加がありました。バングラデシュの教育を普及させるために、私（ラフマン）が非常に若いとき（１６才）から関心をもち、学校を作ったという話しに、みんな驚いていました。現地訪問のビデオやスライドも見せました。会場からは、バングラデシュの教育が遅れている原因は何か、カースト制が残っているのかどうか、など非常に興味深い質問を受けました。

カラムディ村を訪れて

1995.12.24～12.31　高尾礼子

ザフォルさんが、日本を発つ前に、皆に言いました。「カラムディ村の人々は、隣村と同じように、日本のことをとても近くに感じています。私たちの国は、貧しいけれども、決して物が欲しいわけではありません。日本の皆さんに、精神的な支えになってほしいのです。どうか、これからも、友達でいてください。」と。その言葉が、耳から離れませんでした。

カラムディ村は、とても美しい村です。見渡す限り、人の手の入った畑が広がっています。私達の泊まった宿舎の回りには、真っ白やピンク色の綿の花が咲いていました。その中に１本、ひときは目をひく、ジャックフルーツの木が立っています。宿舎の屋上からは、朝焼けも夕焼けも、降ってくるような星空だってみることができます。昼間は、村人たちの笑顔と、ゆっくりとした時の流れが、辺りを包んでいます。ほら、道端の木々も、嬉しそうに手を振っているでしょう。

私は、ションダニションスタの集まりの中で話しました。「ここはとても素晴らしいところです。子供達の瞳はキラキラ輝いています。本来、学ぶことは、それ自体が喜びであると思います。けれども日本の子供達は、勉強、勉強で、とても疲れています。回りの自然も壊され、心が病んできています。私たちのほうこそ、この村から学ばなくてはなりません。」

確かに、村の抱えている課題は多いでしょう。教育のこと、医療のこと…。でも…。おそらく、自分たちは滅多に口にできないであろう食べ物を、私たちに振る舞ってくれる村人たち。心からの笑顔で話し掛けてくる人々。自然の厳しさも、恵みも受け入れて生きていく人々。家族が寄り添い、助け合って、一昔前の日本にあった、暮らし。どうか、お金では買うことのできない、それらの宝を無くすことのないように。これからもお互いに学んでいきましょう。今も、私たちの車の後を「ジャパニ、ジャパニ。」と言って、駆けてくる子供達の姿が、離れません。

スタディツアーに参加して

イケダジロー

初めての海外旅行、唯一(?)の男性ということで"ZERO""ZERO"と大もて！張り切りすぎて後半はちょっとバテ気味。体重が5kg減ってしまいました。　大濠高2年

イケダ ジュンコ

いつもジロー君のことを気にかけ、周囲の人へも心配りをして、一番大人。現地の人がJUNKOといえず、JINKO、ZONKOになってしまうのが、ちょっとつらかった。

薬をいっぱい持って来たのに帰りに、渡して来てしまい、後半はちょっとつらい旅行でした。

福岡女子大　一年

タカオ レイコ

ザフォルさんの「タカオさん」と呼ぶ声と、彼女の笑顔を見ていると、言葉が通じないことなど忘れてしまいそう。民族衣裳とバングラデシュを愛する心は、きっと村の人達にも通じているでしょう。

内野小学校　勤務

ナカノ サトミ

終始パワー全開
"はばたく折り鶴"は人気の的
バングラデシュの料理はちょっと口に合わなかったとは本人の弁。
……でも一番食欲があったのでは…と陰の声

博多高校勤務

ナカノ ノリコ

いつもマイペースで、村のいい所だけを満喫して来ました。今回のツアーに一番積極的で現地の子ども達の可愛らしさが忘れられません。

又、行きたいなあ。
(今度は自分で働いて)

中村学園大　1年

ナカノ フミヨ

何でもやってみたいという精神でフェリーの中で売っているポンポン菓子(色んな調理料をまぜて小気味よい音でシェイクしてくれる)も、葉っぱに包んだタバコもためしてみました。

カラムディ村の皆さんの歓迎に感謝。元気で頑張って…

銀歯のおばちゃんです。博多高校勤務

（代表より）

新年あけましておめでとうございます。

昨年12月皆様に、会員・協力会員の入会お願いや、会費の納入状況、それに振替用紙を送付させていただきました。

たくさんの方々から入会のお申し込みや、会費や募金の入金などをしていただきありがとうございました。現地の希望である「塀の建築」について、会の運営状況から、今年は待っていただくことになり残念に思っております。次年度は出来るだけ希望がかなうものとしたいと思っておりますので、皆様、おぼえて御協力くださるようにお願いします。

◇募金ありがとうございました。

久留米「友の会」	20,000円
筑紫野伝道教会	5,000円
丸二商会	10,000円
西南学院中学校	27,390円
福岡シティ銀行姪浜支店	49,284円

◆新しく会員・協力会員になられた方々

吉永　昌子、小野　美代子、　武藤　千加子、
長倉　　孝、川崎　甚五、　原田　恭子、
竹添　智美、定村　　仁、　中間　令三、
宇治野　みさゑ、江頭　好子、　江崎　啓子、
林　　三千代、田辺　幸子、　守谷　好美、
福島　啓子、鴇川　直人、　ベテスダ姉妹会、
横田　幸子、西川　一好・博美、船越　明美、

（敬称略）

NGO福岡ネットワーク総会のお知らせ

ボランティア活動が社会一般から注目されるなかで、NGO福岡ネットワークの活動も3年目を迎えました。NGO団体や個人の情報交換の場として発足したネットワークも、昨今の国際的な激動を映し出すかのように、役割や活動内容も変化しつつあります。このNGO福岡ネットワークの2回目総会を下記のとおり開催する予定です。また、西日本新聞論説委員の河本典久さんによる「市民活動（NPO）法案を考える」という講演会も併せて予定しています。福岡のNGOやNPO法案のことをもっと知りたいという方やご興味のある方ふるってご参加下さい。なお参加費は無料です。

とき：1月20（土）午後2時から5時まで

ところ：アクロス福岡3階　こくさいひろば研修室A

福岡市中央区天神1-1-1　TEL 092-725-9200

詳しくは.....今村（TEL092-921-5845)までお願いします。

市民活動法案（NPO法案）に目を向けましょう

最近の新聞に、「NPO法案」とか「市民活動法案」とかの文字が目につきます。これは、これまで任意団体としてやってきたNGOやボランティア団体を法人として認め、社会的かつ法的に保護しようという目的のもとに出てきたものです。欧米やアジア各国ではすでに、国際協力活動や、国内での人権や環境活動を行う民間の団体を、法人として認め、税制面でも優遇する法律ができています。わが国でも昨年の阪神大震災のときのボランティアの活動に触発されて、国会議員の間からボランティア活動を社会的、法的に保証する法律が必要だ、という認識が生まれてきました。

現在、新進党をはじめ、連立与党の案などが出てきています。NGOがこれまでのように心ある人の任意団体としてのみとどまることなく、社会的に力強い基盤をもち、また法律的、税制面での保護を得られることは、わが国の海外協力活動、また国内でのボランティア活動にとって、大きな前進となることでしょう。

しかし、このような自発的なボランティア活動に慣れていない日本の政治家のなかには、NGOを管理するためにこの法案を利用しようと考えている向きもあります。私達は、実際にNGOに関わるものとして、この法案の行方に目をむけ、自発的な民間のNGOにとって、本当に意味のある法律となるよう、働きかけていきたいと思います。

チャリティーバザーのお知らせ

恒例のチャリティーバザーを西新商店街明治生命ビル前において、３月３１日（日）に行います。
不用品・手作り品等々何でも結構ですが、古い衣類は売れ残りの場合処理に困りますのでご遠慮ください。

連絡先　　大木　　092-822-5795
　　今給黎　　092-591-1129
物資搬入先　　福岡市早良区西新５－５－１３（大木さん宅）

2月の予定

運営委員会
２月１８日（日）１：３０～　大木さん宅

作業日
２月　７日（水）８日（木）１：３０～　大木さん宅
ご都合のつく方どなたでもお手伝いお願いします。

バングラデシュと手をつなぐ会

〒８１４
福岡市早良区西新５－５－１３
FAX&☎ ０９２（８２２）５７９５
代表　大木　松子

送金先　郵便為替
０１７２０－２－１０４４２
加入者名　バングラデシュと手をつなぐ会